

# 兵庫の希少生物に出会う

いっしょに読もう

すでに絶滅したり、絶滅の恐れがあったりする動物の最新研究を伝える企画展「ひょうごのレッドリスト展」哺乳類・爬虫類・両生類・魚類」が、県立人と自然の博物館（ひとほく、三田市弥生が丘6）で開かれている。2017年改訂の「兵庫県版レッドリスト」などから73種を標本やパネルで紹介し、最近に希少性が分かった種類やその経緯も披露する。

（門田晋一）



Aランクのニッポンパラタナゴ



左からセトウチサンショウウオ、ヒバサンショウウオ、サンインサンショウウオ。まだレッドリストには登録されていない



個体数が回復したことでランクが変更されたツキノワグマ

## 「レッドリスト」などから73種紹介

県は1995年に絶滅の危険がある動植物や環境をランク付けした「県版レッドデータブック」を発表。2003年に見直し10年から各分野で改訂を進める。17年はクモ類を含めた5種類でランクを改めた。会場には絶滅の危険が最も高いAランクの「アカウミガメ」「ニホンモロンガー」などの標本を並べる。日本固有種の淡水魚でAランクの「ニッポンパラタナゴ」は生きのままの姿で展示。約80年前に中国から持ち込まれた「タイリクバラタナゴ」と交雑が進み、純系は少ないという。近年、神戸市北区大沢町の複数のため池で見つかり、同町のシンボルとして守られるようになった経緯も伝える。ランク外の見直しも。これまで「カスミサンショウウオ」は全て同一種と考

## 意外と身近な場所にいるよ

えられてきたが、今年2月にDNAの配列や生態が少しずつ異なり、9種類あることが分かったという。県内でもカスミとされてきた瀬戸内海沿岸の「セトウチサンショウウオ」、兵庫県内の「ヒバサンショウウオ」、新温泉町の「サンインサンショウウオ」は希少性は高いとみられ、今後格付けが必要とパネルで訴える。一方、県内の「ツキノワグマ」は90年代に絶滅の危険が高まり、96年に狩猟を全面禁止し、2003年11月にAランクに指定した。だが数が回復したとして11年にBランク、17年には800頭を超えたとして貴重種と同等を指す「要注目」にランクが下がった珍しい例とする。ひとほくの高橋鉄美主任研究員（48）は「リストに入る生物は意外と身近な場所にいる。展示を通し、兵庫の自然に関心を深めてほしい」と話す。



県版レッドリストに掲載されている動物を解説したパネル。いずれも県立人と自然の博物館

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

- ① 1995年に兵庫県が出した絶滅の危険がある動植物や環境をランク付けした冊子を何といいますか？
- ② 絶滅の危険が最も高いもので、生きのまま展示されている淡水魚の名前を書きましょう。
- ③ 90年代に絶滅の危険があったツキノワグマは、17年には800頭をこえました。それはなぜでしょう。

県版 

--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--

名前【

NIEワークシート 小学中学年～中学生／社会、理科、総合、朝NIE